

2023年度第7回(2024年第5回) 理事会議事録

日 時：2024年7月26日(金) 14:00～17:20

場 所：トラストシティカンファレンス・

京橋 STUDIO2

現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、
有賀久哲、石川仁、内田伸恵、
大野達也、小川和彦、古平毅、
佐々木良平、澁谷景子、中村和正、
村上祐司(以上理事)、
塩山善之(監事)、
寺嶋秀夫(顧問会計士)、角田怜子、
鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)

[WEB出席]：青山英史、大西洋、岡嶋馨、櫻井英幸、
高橋 健夫(以上理事) 生島仁史(監事)

欠 席：井垣浩(理事) (敬称略)

審議事項

1. 前回議事録承認 (溝脇専務理事)

- 前回(2024/6/28)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。
- 『IMRT臨床的ガイドライン最終案』のメール審議(2024/6/28-2024/7/4)結果について、施設基準「JASTRO認定施設であることが望ましい等」を追記した最終案が全員賛成の回答にて可決された旨確認された。

2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)

- 1) 入会申請(2024年6月21日～7月17日)：計8名[内訳_正会員4名、准会員3名、国際賛助会員1名]であることが報告され、承認された。
- 2) 2024年7月17日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。
 - 会員総数：4,421名[内訳_正会員2,329名、准会員1,988名、名誉会員56名、賛助会員39社、国際賛助会員9名]
 - 退会者：19名[正会員12名、准会員7名]
 - 正会員内訳：医師2,119名 歯科医師46名 医師以外164名(医師比率90.98%)
 - 男女比率：正会員[男性1,855名、女性474名]、准会員[男性1,515名、女性473名]
 - 専門医数：1,440名[男性：1,166名、女性：

274名]

- 会費納入率：正会員94.29% 准会員89.49%
- 7月17日現在の2年分会費未納者リストが提示され、8月末までに会費納入がない場合は定款10条の定めにより退会となるため、関係各所に声掛けする旨 役員に協力依頼が求められた。

3. 2024年度予算申請(各委員会・部会・セミナー等) (溝脇専務理事)

2024年度(2024/9～2025/8)各委員会・部会事業、各イベント予算案について、各担当理事より、前回予算より30万円以上UPしたものは見積等の詳細資料が示され説明がなされた。また会計士より全体予算が近年赤字予算であるが、預金や特定資金等の内部留保もあり、予算通り執行されても問題ないことが説明され、提出予算案が承認された。最終の予算は今回の予算案と、次回8/24理事会で挙げたものにて最終確定する旨、確認がなされた。

4. 推薦理事について (溝脇専務理事)

細則17条第8項「立候補した代議員からの選出に依らない理事(推薦理事)3名」選出について、代議員選挙(開票：6月13日)で選ばれた新代議員の中から「専攻分野ならびに地域、性別などの不均一性」を考慮し、以下の推薦候補者3名を理事会として推挙することが承認された。尚、候補者には理事会後、意思確認を行う旨確認された。

山内智香子 代議員(滋賀県立総合病院)

辻野佳世子 代議員(兵庫県立がんセンター病院)

中村聡明 代議員(関西医科大学附属病院)

また、上記推薦理事案を明記した「2024・2025年度理事・監事選挙通知」と、「第41回学術大会長選挙公示」を、8月6日に新代議員宛送付し、ホームページにて掲載予定である旨確認された。

5. RALS用高線量密封小線源線源強度の検定書からの乖離に関する報告とお願い (大野理事)

2023年12月線源製造所の検定書から線源強度5%程度乖離したRALS用Ir-192線源が海外製造業者から国内製造業者へ配送され、今回、国内の製造業者による線源強度計測実施により、ユーザー装置への装填前に乖離が発見され、返送や検討を行い、安全な治療提供が行われた旨説明された。安全な密封小線源治療提供継続のため、本件をユーザーである会員に周知し、ガイドラインに則った正しい線源強度の測定を実施するよう啓蒙を、分かりやすい資料にして、広報委員会と連携して、ホームページやJASTRO-gram、NL等で周知する旨承認された。また、医療安全委員会、QA委員会との連携について、ユーザー測定アンケートを、以前物理学会が実施しており、今回は小線源治療部会が物理学会とも相談し、とりまとめて実施する方向が確認された。

6. 2024年地域貢献賞について(有賀理事)

放射線治療の発展に寄与した優れた地域貢献活動を展開した個人・団体を表彰する地域貢献賞について、2024年は2名の応募があった旨報告され、

委員会推薦の2名を受賞者とする旨承認された。

- 川本晃史 会員(順天堂大学医学部附属静岡病院)
「放射線治療設備過疎地域における緩和的単回照射およびSBRTの普及活動」
- 小幡史郎(長崎県島原病院)
「日々のがん診療強化」

7. 研究助成金細則の変更について (村上理事)

現 研究助成金細則の「優秀な課題がある場合は全体を最大3課題まで採択可」に関して、「応募課題から本研究助成に相応しいと考えられるものを最大3～4課題採択可能」とする変更案が提示され、承認された。尚、前回理事会にて指摘のあった助成の具体的な基準について、募集要項に記載することが提案され、他の助成金獲得状況や、若手・一般病院の会員の研究、当会にとって重点的に支援すべき研究課題も採択基準とする旨を応募要項に盛り込むこと、また表現については委員会でも再検討することが確認された。

また、課題研究の成果を公表する場として、JRR誌投稿を推奨し補助(上限\$300)を実施しているが実施状況について編集委員長より質問があり、調査する旨確認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

(宇野理事長 / 溝脇専務理事)

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 第3四半期会計報告 (寺嶋会計士)

2023年度第3四半期の会計報告が提示され、現状黒字となっているが今後決算に向け事業費の支出が見込まれることから、凡そ昨年と同様の推移が見込まれる旨説明された。今後の収支状況を鑑みて、場合によっては次回8/24の理事会までに特定費用準備資金等の検討が必要との説明がなされた。

3. 「臨床的IMRTガイドライン」JRSでの承認等

(宇野理事長 / 大西理事)

メール審議(2024/6/28-7/4)にて承認された「臨床的IMRTガイドライン」最終案について、協同発行予定の日本医学放射線学会理事会(7/16)においても、訂正や修正の意見はなく承認された旨報告された。なお本ガイドラインについて、承認後、当会HP公認ガイドラインページへ掲載した旨報告がなされた。

4. 高精度放射線外部照射部会報告

(宇野理事長 / 大西部会長)

第37回高精度放射線外部照射部会学術大会[2024/3/2東京コンベンションホール/宇野隆世話人(千葉大)]の開催報告[参加者720名(内有料459名、賛助会員・名誉会員非会員等招待261名)、及び収支決算書による会計収支報告がなされた。[仮払金の返金あり]

5. 医療安全委員会報告「放射線治療における品質保証および医療安全のQI がん診療連携拠点病

院を対象とした2020-2021年度調査報告書」(小川理事)

2020年度より当会予算にて開発支援の「放治における品質保証Quality Indicatorを用いたWEB解析システム」による調査報告書「がん診療連携拠点病院を対象とした2020-2021年度調査報告書(調査対象年度:2019年)」(国立がんセンターがん研究開発費と協働)が示され、今後当会ホームページの「医療安全」に役立つ資料のページへ掲載する旨報告された。

6. 国際委員会報告:日中韓 Trilateral Symposium/ESTRO-JASTRO シンポジウム (青山理事)

●日中韓 Trilateral Symposium 2024 (Nov. 14-17th, Beijing) 準備状況について、Gao先生より国際委員会に開催と演者推薦依頼があり、詳細が確定次第当委員会推薦候補者の中から演者選定をする旨報告された。

●第37回JASTRO学術大会:ESTRO/JASTRO 2024 symposium(11/22 9:10~90分/横浜) 演者が決定した旨が報告された。また費用負担について次年度以降のため情報共有する旨説明された。

●ASTRO 2024(Sep.29-Oct. 2, WashingtonDC) ASTRO/JASTRO Symposium 準備状況について、セッションの詳細が確定した旨報告された。また、演者の旅費については、旅費規程に照らして検討され、今回は当会では負担をしない旨確認された。

7. 用語委員会報告:用語集・略語集改訂にかかわるパブリックコメントについて (有賀理事)

用語集・略語集への改訂に関する公募を行い、委員会にて用語集・略語集の改訂作業を行った旨報告された。また改訂作業の反映に先立ってHP、JASTRO-gram等でパブコメを実施の予定で、理事会にて報告する旨が説明された。

8. 広報委員会報告:放射線治療PR「7/13市民公開講座」/医学生等向け動画/「患者さんと家族のための放射線治療Q&A 2025年度版」改訂進捗 (岡嶋理事)

●特定資金事業 市民公開講座:7/13ハイブリット(会場コモレ四谷+WEB)にて開催され、現地参加46名(申込55名)オンライン視聴266名であった旨報告された。録画データについて、学会に1年間の使用権があり、理事会最終確認後、HPへの掲載(youtube公開)し、参加者へのアンケートと会計については今後報告予定である旨説明された。

●特定資金事業 医学生・研修医向けリクルート動画(新動画3編・旧作動画修正版2編):動画データの理事会最終確認後、最終版をHPへの掲載(youtube公開)の予定である旨報告された。

●「患者さんと家族のための放射線治療Q&A」(2015年初版、2020年改訂):現在2025年版の改訂版発行に向け、唐澤久美子委員を中心に、執筆要領、分担に基づき改訂原稿執筆中で、

2025年学術大会には金原出版より販売の予定である旨報告された。

9. 医学物理士委員会/QA委員会報告：放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制の構築に関する関連団体協議の報告 (大野理事)

厚労科研大西班研究より、認定資格によりIMRT治療計画スキルが異なり、各学会・団体が協働し物理技術専門職の教育・研修体制を構築する必要性が提案された。その後、当会を含む放射線治療関連8団体が“放射線治療品質管理機構”が取りまとめ役になることに賛同し、7/1-2に機構第1回治療計画補助者会議が開催された。会議では、IMRTを中心とした高精度放射線治療に関して治療計画業務補助者は①リスク臓器の輪郭抽出②ビームアレンジ③線量計算業務をできるようにすることが教育・研修の目標であること、今後のロードマップについて、2026年6月のIMRT新施設基準開始に合わせ、2025年1-4月には教育研修体制の試験運用を目指すことが議論され、コンテンツについて、教育委員会に協力を要請し「やさしくわかる放射線治療学」等を参照してe-learning化を検討している旨説明された。

10. 小線源治療部会報告 (大野部会長・担当理事)

小線源治療部会第26回学術大会「2024/5/24～25/Gメッセ群馬/大野達也 世話人(群馬大)」の開催報告[参加者310名(内有料参加者284名、学生・賛助会員・名誉会員非会員等招待26名)及び収支決算書による収支報告がなされた。[学会への返金一部あり]

11. 緩和的放射線治療委員会報告：緩和的放射線治療好事例集サンプル/緩和的放射線治療診療ガイドライン CQ案 (高橋理事)

- 緩和的放射線治療好事例集について、サンプル資料が提示され、現在最終校正中である旨説明され、完成後はデータにて配布等を進めていく旨確認された。
- 緩和的放射線治療診療ガイドラインについて、提案のあった21のCQ案に対しガイドラインWGでの投票で得点が高かった上位10案とすること、斎藤哲雄WG長を中心に予算で承認された文献検索を予定している旨報告された。

12. がん放治推進報告：ダイバーシティ目安箱

(石川理事)

男女共同参画・働き方改革小委員会より、今後の新しい取組みとして、代議員以外の会員が、ダイバーシティに関する意見を述べるができる仕組みづくり「意見募集：目安箱の設置」の提案を検討している旨、その経緯と、審議の内容が報告された。

その他報告事項

13. 放射線治療専門医サブスペシャリティ研修期間について (古平理事)

JRS理事会にて、サブスペシャリティ専門医整備基準の改訂が検討されている旨、報告された。

14. 今後の新規事業申請について (宇野理事長)

8月までの予算編成に合わせ、財務・総務委員会予備審査は原則年1回としているが、予算編成終了後、委員会で十分検討された重要な事業については、随時、理事会報告→審議を行う旨確認された。

新規予算予備審査をはじめ、各種総務・財務案件が増えているため、次期委員会編成において、総務と財務を切り離す案も検討している旨が説明された。

その他

15. 当会事業説明英文資料“About JASTRO”の更新について、理事長より、関係各理事に依頼がなされた。